

特徴見つけ子育てを

保育士ら支援法を実践

前 弘

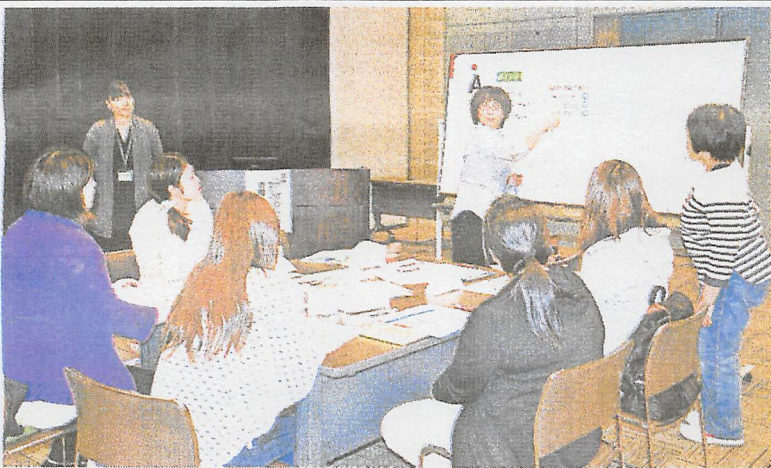
子育てに難しさを感じる保護者らを支援する「ペアレント・プログラム」のワークショップが26日、弘前市のヒロロ内市民文化交流館ホールで開かれた。

市内の保育士ら29人が参加し、プログラムの実践練習を行いながら、特徴などを学んだ。ワークショップは計3回行う。

弘前大学大学院医学研究科附属子どもこころの発達研究センターと、弘前市が主催。講師は、同センター特任助手の安田小響氏が務めた。

ペアレント・プログラムは、訓練されたトレーナーの指導の下で行われる、発達障害を持つ子どもの親のための育て方トレーニング。「ペアレント・トレーニング」の初級編として、子どもやその親を支える支援者が実施できるものとして開発され、行動を分析し褒めることに特化している。

安田氏はガイダンスのポイントについて「子どもの発達には多様性がある。大人でも子どもでも、誰にでも得意・不得意はあり、



プログラムを実践練習する参加者

個性や特徴に合った子育てを見つけていくことが重要」と説明。参加者は進行役や保護者役に分かれてプログラムを体験し、理解を深めた。

(西尾瑛)